

第100回 〈ケア〉を考える会

2015. 2. 8



〈ケア〉を考える会が100回を迎えました。

「ゆったりとした時間の中で、本との対話、集う人との対話、自分との対話で、気づきや、もやもや、まだ言語化できない何かしらが湧いてきます。そのとき、参加者それぞれが学びの主体としてその場にいることが尊重される。そして自分の中でゆっくりと目には見えないけれど、化学変化がおきていく。その余韻にひたりながらの懇親会。それぞれの現場での奮闘ぶりを共有し、そこで得たエネルギーでまた翌日から自分の現場に向かう。何かやってみようと思うには、背中を押してもらうことも必要だし、倒れたときの支えも必要。ケアを考える会はその両者を兼ね備えている場だと感じます。」

(参加者・奥西さんのことばより)

